

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)(検討会への報告案)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野

| | 総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算) | I | II | III | 総合評価に係る専門家所見(主なもの) |
|---|--------------------------------|---|--|-----------------------|--|
| | | 目標に向けた取組の進捗 | 支援措置の活用と地域独自の取組の状況 | 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決 | |
| 千年の草原の継承と創造的活用総合特区(阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町) | 3.5 | 3.6 進捗度 ・草原管理面積、野焼き再開 牧野数 149% ・牛馬の放牧頭数 《定性的評価》 ・観光入り込み総数、阿蘇地域の宿泊客数 《定性的評価》 ・あか牛肉料理認定店数 67% ・草原体験利用者数 《定性的評価》 | 3.2 財政支援等 ・生物多様性保全推進交付金事業 地域独自の取組 ・ASO環境共生基金事業 ・入湯税込観光活用事業 等 | 3.5 | <p>・「草原管理面積」については、いったん令和2年度には実績値が減少したが、3年度は回復傾向が見られ、望ましい状況になっている。「野焼き再開牧野(組合)数」については、高齢化が進む中で大変な取組だと思われるが、にもかかわらず、引き続き1組合増加しているのは望ましい。</p> <p>・牛や馬の放牧を評価指標として取り入れたのは評価することができる。この放牧が経営的にどのようにプラスに働くのかについて、農業部局の協力を得ながら実証してはどうか。飼料価格が高騰していることもあり、経営的な裏付けが取れれば放牧は広がる可能性があるかもしれない。</p> <p>・観光客・宿泊者数などは、R2年度のデータではあるが目標を大幅に下回っており新型コロナの影響の大きさがわかる。R3年度も同様の傾向が続いているものと考えらるが、R4年度からは、新型コロナの流行はあるものの行動制限がない分、観光客・宿泊客の回復が見込まれる。R3年度については、観光分野はどうしても縮小はやむを得ない。</p> <p>・一方で、「草原体験利用者数」は、ほぼ同水準の実績が維持されており、コロナ禍の影響についての分析が、ほとんど見られない。逆にどのような背景だったのか、もっと深い分析があってもよいのではないか。</p> <p>・指標は1年遅れてでしか把握できず、コロナ禍の影響がもっとも出た年度であり、評価が難しい。</p> |